

無者の福音と宗教間対話

-延原時行先生を追悼して-



2021年6月28日滝沢克己協会講演

田中 裕

<https://tourikadan.com/nihongo.htm>

「有者」と「無者」の意味するもの—パウロ書簡から

• 資料—1 コリント前書1:26—31

- 26 Βλέπετε γὰρ τὴν κλησιν ὑμῶν, ἀδελφοί, ὅτι οὐ πολλοὶ σοφοὶ κατὰ σάρκα, οὐ πολλοὶ δυνατοί, οὐ πολλοὶ εὐγενεῖς: 27 ἀλλὰ τὰ μωρὰ τοῦ κόσμου ἐξελέξατο ὁ θεὸς ἵνα καταισχύνη τοὺς σοφοὺς, καὶ τὰ ἀσθενῆ τοῦ κόσμου ἐξελέξατο ὁ θεὸς ἵνα καταισχύνη τὰ ἰσχυρά, 28 καὶ τὰ ἀγενῆ τοῦ κόσμου καὶ τὰ ἐξουθενημένα ἐξελέξατο ὁ θεός, τὰ μὴ ὄντα, ἵνα τὰ ὄντα καταργήσῃ, 29 ὅπως μὴ καυχῆσθαι πᾶσα σὰρξ ἐνώπιον τοῦ θεοῦ. 30 ἐξ αὐτοῦ δὲ ὑμεῖς ἐστε ἐν Χριστῷ Ἰησοῦ, ὃς ἐγενήθη σοφία ἡμῖν ἀπὸ θεοῦ, δικαιοσύνη τε καὶ ἁγιασμὸς καὶ ἀπολύτρωσις, 31 ἵνα καθὼς γέγραπται, ὁ καυχώμενος ἐν κυρίῳ καυχάσθω.
- 26 Videte enim vocationem vestram, fratres, quia non multi sapientes secundum carnem, non multi potentes, non multi nobiles: 27 sed quæ stulta sunt mundi elegit Deus, ut confundat sapientes: et infirma mundi elegit Deus, ut confundat fortia: 28 et ignobilia mundi, et contemptibilia elegit Deus, et ea quæ non sunt, ut ea quæ sunt destrueret: 29 ut non gloriatur omnis caro in conspectu ejus. 30 Ex ipso autem vos estis in Christo Jesu, qui factus est nobis sapientia a Deo, et justitia, et sanctificatio, et redemptio: 31 ut quemadmodum scriptum est: Qui gloriatur, in Domino gloriatur.
- 26 兄弟よ、召を蒙れる汝らを見よ、肉によれる智き者おほからず、能力ある者おほからず、貴きもの多からず。27 されど神は智き者を辱しめんとて世の愚者を選び、強者を辱しめんとて弱者を選び、28 有者を亡さんとて世の卑しきもの、軽んぜらるる者、すなわち無者を選び給へり。29 これ神の前に人の誇る事なからん爲なり。30 汝らは神に頼りてキリスト・イエスに於いて在り、彼は神に立てられて我らの智慧と義と聖と贖ひとになり給へり。31 これ『誇る者は主に頼りて誇るべし』と録されたる如くならん爲なり。」

滝沢克己のカールバルトへの問いと宗教間対話の可能性

- 資料2 カールバルト「教会教義学」—第一巻第二分冊第17節「宗教の揚棄としての神の啓示」(1938)
- 「真理と虚言にかんして決定的なものは実際、ただ一つだけである。この一つのものとはイエス・キリストという名である。…まことにキリスト教の真理は、ただそれのみがわれわれの宗教の真理を成す神の啓示の現実の総体としてのこの御名の、まったく形式的な単純さのなかにだけ秘められている！いいかえるとそれは、多かれ少なかれ新鮮な・恵みの宗教としての・その構造のなかに、すなわち、原罪や、すべての罪人にかわって果たされた贖罪のみ業や、ただ信仰によってのみ現成する義認や、聖霊の賜物や、感謝などについての宗教改革者たちの教説のなかに、含まれているわけではないのである。すべてこれらのことは、ここに明らかに示されたとおり、異教徒たちもまた教えることができる、のみならずかれらなりにこれを生き、教会としてこれを表示することさえもできる。しかし、そのばあいにも、異教徒が異教徒であること、憐れな・まったく失われた・異教徒であることには、いささかの変わりもないのである」
- 資料3 滝沢克己「信仰の可能性について」『著作集2—カールバルト研究』所収1935年
- 聖書はこの肉となった御言の唯一の証言である。しかし、我々はキリスト者として、聖書の外で神について語ろうとする凡ての他の本や著述を、それらのものをただ一度も読むことなしに、頭から全く偶像崇拝であると断定しなくてはならないのであろうか。…この問題は未解決の儘である。それは人が、神の言の受肉、十字架と復活、キリストの昇天と再来を形成すべきキリスト論ないしは三位一体論—と緊密に関係している。この問題を解決するには、人は背理のようではあるが、一旦この問題から離れて、聖書そのものの厳密な究明に集中しなければならない。ただキリストからのみ、聖書の意味における信仰は、ただしく実り多く論議されることができよう。

- 資料4 滝沢克己「イエスキリストのみ名の両義性」(『浄土真宗とキリスト教』1974 所収)
- (バルトにおいては)「イエス・キリストのみ名」という語に、けっしてそのままに見過ごされてはならない重大な曖昧(二重義性)が含まれているのだ。すなわち彼が「イエス・キリストのみ名」と呼ぶとき、実質的に意味しているのは、耳に聞こえる響き、目に見える綴りではない神人の根源的な関係(インマニエルの原事実)そのものであるのに、彼はこの原事実そのものと、その一表現(歴史的世界内部の一事象)としての「イエス・キリストのみ名」とを十分にはっきりと区別していない、両者の関係を明らかにしていないのだ」

資料5 滝沢克己 ハイデルベルグ大学1974-75 講義から『宗教を問う』所収(1976)

- インマニエルの原事実としてのイエス・キリストにおいて、聖なる神と罪なる人とは、互いに無限に隔たっているままで、しかもまたどうじに、無限に近い。無条件に歓ばしい福音は、それとしてすなわちまた避くべからざる厳しい律法であります。・・・ナザレのイエスと呼ばれる一人の人の言葉と行為、その生と死において、永遠に隠れている絶対的になくにものか>—私ども日本人がずっとその昔からその心の最も深い奥底で予感しながら、それとして純粹かつ厳密に言い表すことのできなかつたなくにものか>—が私どもすべてにとって最も明らかにかつ鋭く指し示されています。・・・(キリスト教は)本来イエスの十字架にきわまる歴史の出来事をその根底から説き明かしつつ証しするものとして、かえって私ども自身の生き方・考え方のもっとも深い核心を強める貴重な糧—直ちに永遠にかかわる仏教も、国家的形成に力点を置く儒教もこれまで果たし得なかつた大きな助け—となることでしょう。しかし、そのためには、西洋のキリスト教自身が、まずナザレのイエス自身にならってみずからを卑しくし、己を絶対化する誘惑を厳しく退けなければなりません。ただその限りにおいてのみ、すなわち、イエスのペルソナのかくかくれた、真にそれ自身で輝く核—キリスト教会の壁の外にも、その欲する時と処においてもどこにでも、いつなんどきでも、自らを啓示することのできる生けるかく—それ自体の力によってのみ、キリスト教は、私ども日本の国民の中に本当に根を降ろすことができるであります。

•『仏教的キリスト教の真理』と「在家キリスト教称名」



—主の御名を讃えて—

○キリスト・イエスの心を私たちの心としましょう

◎憐れみ豊かな神は、私たちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいた私たちをキリストと共に生かし、キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。こうして神は、キリスト・イエスにおいて私たちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを来たるべき世に現そうとされたのです。事実、あなた方は、恵みにより、信仰によって救われました。このことは自らの力によるのではなく、神の賜物です(エペソ2:4-8)

○キリストは神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、しもべの身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、ヘリ下って、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

(ピリピ2:5-11)

◎イエス・キリスト

○インマヌエル(主は我らと共にいます)

◎アーメン

• 『仏教的キリスト教の真理』と「在家キリスト教称名」



-Let us praise the name of the Lord-

- May the heart of Christ Jesus be ours!
- ◎ God, who is rich in mercy, because of the great love he had for us, even when we are dead in our transgressions, brought us to life with Christ, raised us up with him, and seated us with him in the heavens in Christ Jesus, that in the ages to come he might show the immeasurable riches of his grace in his kindness to us in Christ Jesus. For by grace you have been saved through faith, and this is not from you; it is the gift of God. (Ephesians 2:4-8)
- Having among yourselves the same attitude that is also yours in Christ Jesus. Who, though he was in the form of God, did not regard equality with God something to be grasped. Rather, he emptied himself, taking the form of a slave, coming in human likeness; and found human in appearance, he humbled himself, becoming obedient to death, even death on a cross. Because of this, God greatly exalted him and bestowed on him the name that is above every name. (2:5-11)
- ◎ . Christ Jesus !
- . Immanuel (GOD-WITH-US)!
- . Amen.

- [延原時行先生追悼 https://blog.goo.ne.jp/eigenwille/e/e5f97e5f24f8e65f5f2ce1e2d3c6a95d](https://blog.goo.ne.jp/eigenwille/e/e5f97e5f24f8e65f5f2ce1e2d3c6a95d)
- To all friends of Tokiyuki Nobuhara-sensei
- I send the sad news informing Tokiyuki Nobuhara-sensei's passing away. When I visited Toki last year at the Rehabilitation Center in Kobe, he seemed rather well in spite of the aftereffects of cerebral infarction, but afterwards, he suffered from a complication of kidney trouble, and had to go to the Hirono Takahara Hospital in Kobe. Unfortunately, it became difficult even for his family to see him in the hospital during the COVID-19 Disaster. His condition became gradually critical, and passed away in the hospital on October 23 (at the age of 83). The family funeral was held on October 25.
- Nobuhara-sensei graduated from the faculty of theology, Doshisha University, and after dedicating himself to the frontier missionary at Itami, went to Claremont to study process theology. He was influenced by Katumi Takizawa who advocated The-anthropology of Immanuel(GOD-WITH-US) aiming at integrating Karl Barth and the Kyoto Buddhistic philosophy, especially Kitaro Nishida. Takizawa was one of the pioneers of the Buddhist-Christian dialogue in Japan.
- I met Nobuhara-sensei for the first time at Claremont in 1984, when I was invited by Prof. John Cobb to attend the meeting of "Whitehead Relativity Group". Nobuhara-sensei also invited me to the forum of Interreligious dialogue between "Process theology and the Nishida School of Buddhist philosophy" which he presided in AAR. Although Nobuhara-sensei is a protestant while I am a catholic, we share the standpoint of "Non-denominational Christianity" . I appreciate his "Theology of Fraternity and friendship in Jesus" and his practice to preach the Gospel in the world.
-

• 復活の省察



生くるとは深き淵より共々に甦ること喜びてこそ

Reflections on the Resurrection: Singing with My Wife

To live is to be resurrected from the deep abyss
joyfully together

• 宇宙時代の良寛—宇宙時代の典礼と御友神学



良寛の「風の歌」

焚くほどは風がもてくる落ち葉かな
を「托鉢生活」と「風の恩寵」を結ぶ「宇宙時代の典礼」として読む
The Universe as Cosmic Liturgy(Thomas Berry)

御友神学:ヨハネ傳15:12-15

12 αὕτη ἐστὶν ἡ ἐντολὴ ἣ ἐμή, ἵνα ἀγαπᾶτε ἀλλήλους καθὼς ἠγάπησα ὑμᾶς: 13 μείζονα ταύτης ἀγάπην οὐδεὶς ἔχει ἵνα τις τὴν ψυχὴν αὐτοῦ θῆ ὑπὲρ τῶν φίλων αὐτοῦ. 14 ὑμεῖς φίλοι μου ἐστε, ἐὰν ποιῆτε ἃ ἐγὼ ἐντέλλομαι ὑμῖν. 15 οὐκέτι λέγω ὑμᾶς δούλους, ὅτι ὁ δοῦλος οὐκ οἶδεν τί ποιεῖ αὐτοῦ ὁ κύριος: ὑμᾶς δὲ εἶρηκα φίλους, ὅτι πάντα ἃ ἤκουσα παρὰ τοῦ πατρός μου ἐγνώρισα ὑμῖν.

12 わが誠命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相愛せよ。13 人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。14 汝等もし我が命ずる事をおこなはば、我が友なり。15 今よりのち我なんぢらを僕といはず、僕は主人のなす事を知らざるなり。我なんぢらを友と呼べり、我が父に聴きし凡てのことを汝らに知らせたればなり。

良寛の詩歌の新たなる読解

我が後を助け給へと頼む身は 元の誓ひの姿なりけり 良寛

滝澤克己の遺著『純粹神人学序説—物と人と—』(1988)から

純粹に神人学的に考える人間は、したがって、自分自身を一つの存在者として知っている。この存在者は一方では、絶對的に偶然的であり、あらゆる歴史的形態をもった規定から自由であり、他方ではしかし、何よりもまず、そのような諸々の規定とは比較にならないほど厳しい、唯一の神の規定、すなわち人間は、まさしく始めから終わりまで、このような偶然的存在者として自分自身の生涯に於いて生ける神御自身を表現すべきであるという、唯一の神の規定の下に立っているのである。このようなものとして人間は、たとえ過酷な歴史的状況にあっても、絶えず希望に満ちている。

